【資料】令和5年度
神戸市立博物館事業自己点検評価

神戸市立博物館は下記の4項目をその「使命」として位置づけています。

(1) 神戸を中心とする考古、歴史資料と、東西文化の交流に関する南蛮美術、古地図資料などの調査・研究・収集を通じて、多様な神戸文化の特徴と文化交流の態様を明らかにします。その成果を市民・利用者と共有するとともに、これを次世代に継承し、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
(2) 市民・利用者が、優れた国内外の文化・芸術にふれあう機会を積極的に「提供する」博物館として、また、神戸の文化にこれまでにない魅力をつけ加えるために新たな調査・研究を「提案する」博物館、その成果を「発信する」博物館としての役割を果たします。
(3) 博物館を利用するすべての人々が、知りたいこと、学びたいことに積極的に対応し、多くの利用者が、集い、楽しみ、憩うことができ、また、神戸を愛し、誇りとする拠りどころを得ることができる博物館としての役割を果たします。
(4) 阪神淡路大震災の教訓を生かし、文化財を災害から守る重要性、コミュニティや市民の自発的な活動の大切さ、都市復興のなかで文化の果たす役割など、震災とその復興のなかで得た知見を全国に、世界に発信します。

上記の「使命」の実現のため、神戸市立博物館は下記の4つの「博物館使命の4大要素」を定め、これらが包含する事業に対する自己点検評価を行っています。

1. 歴史と文化の継承と研究
2. 歴史と文化への窓口
3. 人々とともに歩む
4. やさしさと安心の確保

令和5年度の神戸市立博物館事業自己点検評価の「総評」は下記のとおりです。

【総評】
「博物館使命の4大要素」のうち「1. 歴史と文化の継承と研究」「2. 歴史と文化への窓口」「4. やさしさと安全の確保」にはA評価、「3. 人々とともに歩む」はB評価とした。

「1. 歴史と文化の継承と研究」については、神戸市立博物館は、古地図を約8,000点収蔵する日本屈指の古地図収蔵館でもあり、令和5年度に、5,000点を超える南波松太郎コレクションの追加受贈を受け、館蔵資料を質・量ともに大幅に向上させる大きな進展があった。資料保存のための環境整備や資料補修において概ね所定の役割を果たすことができた。貴重なコレクションを後世に伝えるべく引き続き適切な資料保存・補修に努めるとともに、調査研究を実施していく。

「2. 歴史と文化への窓口」については、ポストコロナを見据えた特別展の新たな取り組みとして「ジブリパークとジブリ展」を開催し、入館者数歴代11位となる22万人の方に来館いただくなど成功をおさめた。「神戸の文化財III」、企画展「コレクション大航海」は、地域の文化財や館蔵品の魅力発信ができた一方で、収支的には厳しい企画でもあったが、公的補助や特別協賛を活用しながら、地域の文化や芸術の発信基地として博物館の役割を果たした。常設展については、令和元年のリニューアルを経て観覧者の約8割から高い評価を得ているが、さらなる入館者数の増加につながるよう、特別展入館者を常設展へ誘うしかけづくりは引き続き検討していく。

「3. 人々とともに歩む」については、学校との連携、特に「連携授業（館内オリエンテーションを含む）」において、昨年度より充実した内容を展開できた。その他、普及事業・学習支援交流員の活動でも、ポストコロナ社会のなかで多彩な事業を実施した。一方で、イベントの周知・広報や募集方法ついては課題もあり引き続き検討していく。

「4. やさしさと安全の確保」について、令和5年度は、9月から翌年2月にかけて、5か月休館し、外壁改修・空調設備等を更新するなど大規模改修を実施した。来館者の安全や快適な観覧に寄与するとともに、館蔵品の資料・作品の保管管理に資することができた。建物や設備の経年劣化による課題は残されているが、引き続き適切な施設管理に努めていく。
阪神・淡路大震災から29年が経過し、当時の経験を持たない職員が大半となっている。その経験や教訓等を伝承していくことが必要となっている。

博物館法の改正、社会のデジタル化の進行、少子高齢化、海外からの訪日観光客の増加など、博物館を取り巻く状況も変化してきている。その中で、今回の自己評価で明らかになった様々な課題に適切に対応していくとともに、様々な社会状況の変化も踏まえながら、博物館の使命を果たしていけるよう、今後とも職員一丸となって取り組んでいく。

1. 歴史と文化の継承と研究

評価 A 優れている

評価の詳細 2,700件（5000点）を超える南波松太郎のコレクションの追加受贈ができた点は、今年度の大きな成果として評価できる。これによって、コレクションの全体像を見通すことができたこと、コレクションが散逸されることなく館蔵資料となったことの意義は大きい。今後、調査研究を進め、コレクション展示室などで活用していく。
資料保存や補修の点では、日常の地道な作業のなかで充分な保管体制ができている。博物館職員全体の共有と理解を図りながら、引き続き現状の体制の維持に努めたい。
調査研究においては、多忙ななかで、各学芸員が取り組んでいる。一方で、研究成果の発信においては、目録や年報などに速やかに 編集作業を進める必要がある。
デジタルアーカイブについては、高画質化の取り組みは他政令市博物館と比較しても高い水準で進んでいるが、博物館法にも明記されたことで、今後のあり方を引き続き検討していく。
以上をふまえて、A評価としたい。

1-01　資料受入

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　歴史・古地図・美術の分野で新たな資料を受け入れることができた。特に古地図の分野での大型寄贈があり、今後展示・研究の深化が期待できる。反面、このような大型の資料受け入れが物理的に困難になりつつある現実もある。収蔵スペースの整理と創出に向けて抜本的な方策も検討していく。

1-01-01 資料購入・寄贈・寄託・保管転換

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

【購入】・【寄贈】・【寄託】それぞれにおいて、博物館の収集方針や活用計画に沿った実績を目指す。

【4年度実績】

・購入　6件6点

・寄贈　5件892点

・寄託　10件10点

D実施内容

【購入】 3件3点

詳細は報告編p.4

【寄贈】 2,723件5,513点

詳細は報告編p.4

自己評価の詳細 プラス面

【購入】

・展覧会、並びに調査研究で活用が見込まれる資料・作品を館蔵品に加えることができた。

【寄贈】

・神戸の歴史・古地図・美術に関する館蔵品を拡充することができた。

・南波松太郎旧蔵資料のうち、これまで当館で受贈した資料は当館所蔵の古地図資料の中核をなしている。今回の受贈によって、南波松太郎の旧蔵資料として世に知られるものをほとんど収蔵することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

【寄贈】

・資料受贈を検討する段階で、収蔵スペースについて充分検討できなかった。

1-02 資料保存

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 展示・収蔵区域での環境は概ね良好に保たれた。課題であった歴史展示室の温湿度管理も改善に向けた方策を検討しながら対応した。いまだに害虫の発生しがちな区域も散見されるが、モニタリングと対処を徹底することで実害を回避する取り組みを続けていきたい。

1-02-01 収蔵庫・展示室の保存環境

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・温湿度モニタリング(収集・回覧):毎週、収蔵庫清掃および収蔵庫トラップモニタリング:毎月、夏季生物環境調査:2回(6月～10月)を実施する。
・虫害菌記録の情報共有と環境保全を行う。
・温湿度管理は、「収蔵区域」における±5%・2℃以内の変動に抑える。「神戸の歴史展示室」において、温湿度の変動を極力抑えるための対応、展示資料の適切な選定を行う。
・特別展示室2奥倉庫の適切なIPM環境維持を行う。
・中央監視室、管理課と情報共有をはかり、予算要求に備える。
・「異常事態」(展示・収蔵区域での虫菌類の大発生、適切な温湿度レンジを大幅に逸脱する状況など。また地震や風水害など、保存環境に大きな影響を及ぼす外的要因も含む)が発生した場合、迅速に対応する。

D実施内容

【温湿度モニタリング・虫類確認】
収蔵庫および展示室にて適切な温湿度環境が保たれていることを確認している。
【収蔵庫などの清掃】
・4階収蔵庫:毎月1回実施
・特別展示室2奥倉庫:重点清掃の実施
【燻蒸】
1回
【生物環境調査】
2回
【館内殺虫業務】
1回
※空調設備などの工事の終了後に実施した。
【その他】
・毎日朝夕の展示室での巡回確認など、日常的な温湿度・虫菌害対策用のメンテナンスなどを随時実施している。
・今年度は「異常事態」は生じなかった。
詳細は報告編p.4～5

自己評価の詳細 プラス面

・温湿度モニタリング、収蔵庫清掃および収蔵庫トラップモニタリング、夏季生物環境調査など定例の業務は着実に実施した。
・館内の関係者全員にゴミの廃棄・処理方法や害虫発見記録を共有することで、博物館環境の改善に努めた。
・温湿度の変化や虫の発生に対し、加湿器・除湿器の導入や清掃などの対応を都度取り、状況を改善することができた。
・神戸の歴史展示室は、モニタリングに基づいた空調操作により、温湿度の変化に改善がみられた。

自己評価の詳細 マイナス面

・資料への被害は確認されなかったが、夏から秋にかけて、収蔵区域で害虫が多く出現した。特別展示室2奥倉庫で夏季にチャタテムシの発生数が増加した。
・神戸の歴史展示室について、朝に1階ホールの空調が稼働し始める際に湿度が低下しやすいという問題が残っているため、展示資料の適切な選定などの対応を引き続き実施していく。

1-03 資料補修

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 令和5年度に予定されていた資料補修は完了し、令和6年度の補修対象資料を選定した。複数年度工期が必要な補修案件については引き続き検討が必要である。特に諸経費の高騰が最近著しく、慎重な見通しが求められる。

1-03-01 資料補修

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・補修に要する十分な期間を設けるために、補修資料の選定を年度当初に決定する。
・展示計画、総合資料調査を行うなかで、担当者が資料の状態を的確に把握し、資料の状態に応じて速やかに修理業務を行う。

D実施内容

【補修実績】
補修:1件1点
軸首交換:7点
借用展示作品の応急補修:1件
資料保存・展示環境整備など:展示資料の清掃・消耗品購入・備品の補修などを実施
令和6年度実施の大規模補修対象資料を決定。
詳細は報告編p.5

自己評価の詳細 プラス面

・本年度に対象とした資料の補修作業は問題なく終えることができた。
・工期を十分に確保するため、長期間(ただし単年度)の施工を必要とする資料・作品の補修について、今年度中に来年度の補修資料を決め、業者選定を行うことができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・補修が必要な資料について、高額の費用・複数年工期を必要とするものは、作業工程等を策定する必要がある。
・昨年度より、令和元年のリニューアルにおいて新設された「神戸の歴史展示室」他の映像機器等の不調が相次ぎ、当初計画にない経費執行が続いている。今後は、これらも組み込んだ予算計画を立てていく必要がある。
・来年度補修資料を決定できたが、業者選定にあたり見積もりを取得したところ、積算額を大幅に超えた金額となり、早々に来年度予算をオーバーすることとなった。近年の物価高の影響であり、今後補修を予定している資料について下見積を取得しなおす必要がある。

1-04 調査研究

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 調査研究については、自主企画展の準備も含めて計画的に行うことができた。研究成果の発信は、前年度よりも増加した。刊行物については例年以上のペースで編集作業が行われたが、年度内に公開に至らなかったものがあった。PDF公開など新しい手法は定着しつつある。デジタルアーカイブについてはWEB公開でかなりまとまった数の資料情報が追加公開されたが、館内端末(情報コーナー)への追加は、当該端末の性能に限界が見え始めたため見送った。公開数を絞り込んだコンテンツの再編成なども視野に入れる。

1-04-01 調査研究計画(自主企画展計画含む)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・各学芸員が今年度、次年度以降の展覧会を見据えて、計画的に調査を実施する。
・次年度以降の展覧会に向けて関係諸機関と調整を進めるとともに、年度末には進捗状況を館内で共有できるような調査シートを作成する。
調査シートを改善し、より効率的に集約ができるようにする。

【昨年度実績】
展覧会に関する調査:27件

D実施内容

【調査シート】
従前の記載項目の整理、展覧会の進捗状況を記載を設けて、調査シートの内容を改善した。

【実施件数】
調査先70件、作品件数550件　※複数名での調査を含むため重複あり
詳細は報告編p.5

次年度以降の開催予定展覧会の進捗状況
南波松太郎コレクション受贈記念展、池長孟展、京阿蘭陀展の準備。
詳細は報告編p.6

自己評価の詳細 プラス面

・多くの分野で展覧会の準備をはじめとする資料調査を、大きな事故なく実施することができた。
・自主企画以外の特別展でも企画段階で展覧会に携わる機会があったため、展覧会準備にかかる調査件数が増となった。
・次年度以降開催予定の展覧会にかかる調査についても、計画的に実施することができた。開幕に向けて準備を進めていきたい。

自己評価の詳細 マイナス面

展覧会担当や分野によって調査実施数にかたよりがみられる。所属する学芸員が積極的に調査できるように各自が意識して、限られた時間を有効に活用する。

1-04-02 研究成果発信(執筆・講演・発表等)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・博物館の事業及び個人の研究テーマに係る研究論文(査読論文)、執筆(査読論文以外の論文、図録解説以上の解説及び報告等)、普及系記事(新聞記事など)、学会発表、講演(1h以上)などにより、研究成果を積極的に発信する。
・調査シートを改善し、より効率的に集約できるようにする。

【昨年度実績】
44件

D実施内容

【調査シート】
勤労会館などでの講座、連携先の大学での講義等は「普及」の項目を設けて、調査シートの内容を改善した。
記載項目の整理を行った(学習支援交流員向けの勉強会、所属学会の雑誌編集は対象外とするなど)。

【実績】
計70件
詳細は報告編p.6

自己評価の詳細 プラス面

・全ての学芸員が執筆、普及、公演等にて、少なくとも1つ以上の実績を積むことができた。
・執筆や学会発表等の内容は、調査研究や日頃の館内での資料整理の成果を反映しているものもみられた。
・調査シートの項目を整理し、集約がスムーズに行えるようになった。

自己評価の詳細 マイナス面

調査シートの見直しを行ったため、講演の件数が減となった。
他館をはじめ展覧会等での交流が持てるような契機をつくることも件数増につながると考えられる。

1-04―03 館蔵品目録・研究紀要・年報

自己評価 C やや劣る

P課題と目標

・『館蔵品目録』考古・歴史No.39／美術No.38：令和6年3月末公開
※当館HPにてPDF版
・『研究紀要』39号：令和6年3月末刊行
・『研究紀要』38号、37号、36号（既刊）：令和6年3月末公開
※文化財論文ナビ上にてPDF版
・『年報（令和3年度）No.38』：令和6年3月末公開
『年報（令和4年度）No.39』：編集、令和6年3月末公開
※当館HPにてPDF版
上記の刊行、公開を行う。

D実施内容

・『研究紀要』は予定どおり刊行。『年報』・『館蔵品目録』は年度内の公開ができなかった。
・『年報』No.38の公開を行った。

詳細は報告編p.6～7

自己評価の詳細 プラス面

【『研究紀要』】
・館蔵品及び神戸の歴史・文化等に関する調査研究の成果を6本の論考として刊行できた。
【『館蔵品目録』】
・検索の便を鑑み、初めてPDFでの作成を試みた。

自己評価の詳細 マイナス面

【『研究紀要』】
・文化財論文ナビでのPDF公開に至らなかった。
【『年報』】
・No.39については編集を終えたが、公開まで終えることができなかった。
【『館蔵品目録』】
・美術No.38については編集を終えたが、公開まで終えることができなかった。
・考古・歴史No.39については、編集作業に時間を要したことから、今年度は刊行見送りとなった。

1-04―04 デジタルアーカイブの作成

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・館蔵品データベースを基にした公開資料（デジタルアーカイブ）を充実させる。現在1289件の公開資料があり、予定数（公開資料とすることを目指している資料、作品の数）の1451件公開に向けて、写真撮影等の準備を行い、資料・作品の公開活用を行う。
※昨年度のデジタルアーカイブアクセス数351,027件

D実施内容

幕末の大阪浮世絵、川西英の版画作品を中心に432件を新たに追加。文化遺産オンライン及び当館HP「コレクション」での公開件数は1,721件となった。
詳細は報告編p.51

情報コーナーの「コレクション検索」「描かれた神戸　写された神戸」については、本年度の追加を見送った。
（昨年度の情報追加で、端末の動作速度が著しく低下しているため）

デジタルアーカイブ（文化遺産オンライン及び当館HP「コレクション」）のアクセス数は292,962件（3月末現在）。

詳細は報告編p.7

自己評価の詳細 プラス面

・館蔵品の公開資料化を進め、デジタルアーカイブの内容を拡充することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・情報コーナーの「コレクション検索」「描かれた神戸　写された神戸」について、情報を追加することができなかった。
・デジタルアーカイブへのアクセス数が減少している。

2. 歴史と文化への窓口

評価 A 優れている

評価の詳細 新たな取り組みとして特別展「ジブリパークとジブリ展」を実施し、入場者数が目標を大きく上回るなど、大成功をおさめた。今まで博物館に来館しない人が多く訪れたことは、館を認知してもらうきっかけとなったであろう。この点は大いに評価できる。
特別展「神戸の文化財Ⅲ ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～」では、市内外の貴重な文化財の魅力を発信できた。収支バランスは十分ではなかったが、文化庁の令和5年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」補助金の活用を図り、採択を得た。
館蔵品を活用した企画展「コレクション大航海　蝦夷発→異国経由→兵庫行」でも魅力発信ができた。今後も時宜に応じて館蔵品企画展の必要性を痛感した。特別展・企画展・コレクション展示・神戸の歴史展示において、SNSを活用するなど、館の魅力の発信につとめていく。

2-01　常設展

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　神戸市立博物館のテーマである東西文化交流の視点から館蔵資料を活かした展示を行うとともに、令和5年度末にはQRコードを利用した英語の音声ガイドを導入するなどインバウンド対策に取り組んだ。リニューアルから4年を経過しタッチパネルなど設備関係に一部不具合が生じたが、観覧者から高い評価を得ている。特別展からコレクション室へ観客の誘導を図るべく展示内容の工夫や子供向けイベントを実施したが入館者の増加には結びついておらず今後も対策を検討していく。

2-01-01 神戸の歴史展示室

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・交流を中心とした神戸の歴史を伝えることのできる展示を行う。
・大人から子供まで楽しむことのできるわかりやすい展示を行う。
・地域文化財展示室においては、中長期的な展示計画を立て、多様なテーマで神戸市と周辺地域についての展示を行う。
・資料保存の観点から、展示替えを行う。

D実施内容

【総入館者数】
278,591人
【満足度】
88.86%
【展示内容】
［原始］
「海の回廊～東アジアとの交流～」 出土資料、五色塚古墳模型等を用い、太古の神戸の人々の足跡を紹介する。
［古代中世］
「大輪田泊から兵庫津へ」 文献史料、地域に伝わる有形・無形資料等を通して、古代・中世の実像を紹介する。
［近世］
「兵庫津の繁栄」 文献史料や絵図のほか、兵庫津模型を交え、港町として繁栄した江戸時代の兵庫の姿に迫る。
［近現代］
「開港 ～世界との交わり」 文献史料、パンフレット、絵葉書等の資料を展示し、近現代の神戸の姿を活写する。
詳細は報告編p.8～14
【音声ガイド】
無料の音声ガイドについて、英語版を追加し、2月10日より公開した。
本年度利用者数:1,771人(前年度:975人)
【地域文化財展示室】
定期的にテーマを変えながら、神戸の歴史を語る上で欠かせない資料を展示する。
展示替え:4回
詳細は報告編p.14～16
【令和5年度の展示計画】
次年度の広報印刷物準備に伴い、9月に地域文化財展示室の展示計画をまとめた。

自己評価の詳細 プラス面

・東西文化交流についての視点から、日頃からの館蔵資料研究の成果を活かした展示を行った。
・音声ガイドに英語版を追加した。利用者数も休館期間があったにもかかわらず前年と比べ2倍近くまで増加した。
・展示室内の不安定な湿度状況に対応すべく、日々状況を観察して、加湿器・除湿器を運転しながら、改善を図った。また、特に湿度変化の激しい近世のコーナーについては、湿度変化の影響を受けにくい資料の展示に変更し、対応を続けている。
・限られた展示スペースを十分に活用しながら、適宜資料の展示替えを行えた。

自己評価の詳細 マイナス面

・展示室内の湿度が安定しない状況が続いているなかで、日々のメンテナンスに努めている。湿度変化の影響を受けにくい資料の積極的な収集や、複製の製作など、計画的に進めることが必要である。
・タッチパネルなど映像機器等の不調が相次ぎ、当初計画にない経費執行が続いていた。

2-01-02 コレクション展示室

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・昨年度の1日平均入場者数(約142人)を上回る入場者数を目指す。
・近年の学芸員の調査研究、資料収集を反映し、かつ資料保存を考慮した展示を実施する。
・特別展来場者に関心をもってもらえるような展示を企画し、次年度以降の展示中長期計画を策定する。
・パネル、キャプション等において正確な情報発信に努める。
・各学芸員が積極的に展示作業に取り組み、作品資料の取り扱いにかかるスキルアップを心掛ける。
・目標満足度83以上

※昨年度実績
【コレクション展示室総入場者数/総入館者数】
35,880人/264,728人(13.6%)
※開館日数:252日

D実施内容

【コレクション展示室総入場者数/総入館者数】24,246人/278,591人(8.7%)
1日平均入場者166人(開館日数:146日間)

【特別展・企画展会期毎の入場者数】※コレクション展示室総入場数／特別展・企画展入場者数
特別展「ジブリパークとジブリ展」 4,719人／227,177人(2.1%)
特別展「神戸の文化財Ⅲ」 10,541人／8,932人(118.0%)
企画展「コレクション大航海」 8,986人／8,281人(108.5%)

【満足度】88.763% (アンケート総合評価をもとに算出)

【展示内容】
国宝「桜ヶ丘銅鐸・銅戈」と重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」については、専用の展示室で展示している。
「美術」「びいどろ・ぎやまん・ガラス」「古地図」「考古・歴史」の各分野では、期間ごとにさまざまなテーマで展示を行った。
詳細は報告編p.16～21

・展示替えごとにポスターを作成し、コレクション展示室の観覧を促した。
・次年度の展示計画については、概ね今年度内に決定することができた。

自己評価の詳細 プラス面

・1日平均入場者数および満足度について、目標を大きく上回ることができた。
・特別展「神戸の文化財Ⅲ」、企画展「コレクション大航海」開催時には、同展観覧券でコレクション展示室へも入場可とすることで、入場者数増加につなげることができた。
・各展示室において、学芸員が館蔵品・寄託品の調査研究、収集の成果に基づき、さまざまなテーマを設定して展示を構成し、作品・資料の魅力を伝える場をつくることができた。
・新規資料受贈記念展を実施することで、近年収蔵された作品資料について紹介することができた。
・年間を通して概ね当初計画に基づいた展示を実現できた。
・特別展「ジブリパークとジブリ展」の会期中に子供向けの展示内容を企画するなど、特別展来場者の客層が興味をもつような展示を実施できた。
・情報錯誤の少ないパネルやキャプションを掲出し、誤字脱字についても早急に対応できた。
・展示作業を通じて、各学芸員が作品資料の取り扱いにかかる経験を積むことができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・特別展とコレクション展示の観覧券が別売りの期間は、特別展来場者をコレクション展示になかなか誘導することができなかった。
・展示輸送業者の繁忙期と展示替え時期が重なったため、見積合わせの不調が起きてしまった。
・展示台の数など各展示間で調整がうまくいかず、予定していた作品の展示をとりやめた場合があった。
・SNSなどの情報発信の頻度が、担当者や分野によって偏りがあった。

2-01-03 情報コーナー

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・開催中の展覧会やコレクション展示に合わせて、関連図書の配架を行う。
・端末のデータ性能を踏まえながら、情報コンテンツの更新と拡充を行う。
・情報コーナーの使用方法をわかりやすく提示する。

D実施内容

【関連図書】
現在開催している展示や所蔵資料、神戸の歴史を知る上で不可欠な書籍を厳選して配架。また、開催中の展示内容に沿って分類・整理された図書の配架を行っている。

【情報コンテンツ】
情報端末3台でデジタルアーカイブの閲覧可能。
1-04-05「デジタルアーカイブの作成」を参照。
詳細は報告編p.7

【情報センターの利用促進】
情報センターについて、情報端末の用途や目的別の使用方法をまとめた案内冊子を新たに作成・設置した。

自己評価の詳細 プラス面

・受入図書の内容に応じて、情報コーナーに適切に配架できた。
・情報コーナーの使い方について、来館者を意識した案内冊子を作成することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

情報端末の速度低下が発生しており、新規情報の追加を見送らざるを得なかった。

2-01―04 体験学習室

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・教育普及事業の場として「子供から大人までが楽しめる」ワークショップを行う。
・教材、資材、子供向け書籍の維持管理を行う。

D実施内容

【展示】
・土器・銅鐸のレプリカ、遣唐使船模型、竪穴住居模型等を引き続き展示している。
・夏休み土器づくり教室の子供たちの作品を展示した。(8月11日～18日)

【教材、資材、書籍】
・木製パズル、年表パズルシート等を引き続き設置している。
・木製パズルの経年劣化に伴い、デザインを改めて新規製作し、2月10日(土)に入れ替えた。
・新型コロナウイルス感染症対策として設置していたテーブルの透明アクリル板については、規制緩和に伴い撤去した。
・子ども向け書籍の入れ替え・整理を行い、展示に関するものや新しく刊行されたものを配架した。

【利用状況】
開館時には常時開室し、来館者は無料で入室できる。
学校団体の来館時には、学習支援交流員が室内に常駐し、案内やワークショップを実施している。(来館状況は「連携授業」のシートを参照)
学習支援交流員のワークショップ:5回(詳細は報告編p.58～59)
特別展開催時のジュニアミュージアム講座、夏休み土器づくり教室、ナイトタイムミュージアムのワークショップ開催時には会場として使用している。(各イベントの詳細は報告編p.55、60～61)

自己評価の詳細 プラス面

・子供から大人まで、開館時であればいつでも気軽に楽しめる空間を維持できた。
・室内の展示、教材、書籍などの適宜更新や入れ替えをすることができた。
・学校団体の来館時には、学習支援交流員が常駐することで、生徒たちの適切かつ安全な利用が保たれた。
・学習支援交流員のワークショップや各種イベントの会場として用いられ、多くの参加者に文字通り体験学習を提供することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・令和元年度のリニューアルオープンより設置した年表パズルシートなど、教材に汚れや破損が目立つため、定期的なメンテナンスが必要である。
・イベントやワークショップが開催される際は準備時間も含めて室内の利用が制限され、来館者が自由に楽しむことができない場面があった。

2-02 特別展

評価 A 優れている

評価の詳細 新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行後の年度で、「ジブリパークとジブリ展」、「神戸の文化財Ⅲ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技」、「Colorful JAPAN―幕末・明治手彩色写真への旅」と、特別展3本を安全に遅滞なく開催できた。
「ジブリパークとジブリ展」に関しては、入場者数が目標を大きく上回り、神戸市立博物館歴代11位の入場者数となった。結果、展覧会収支も大きな黒字となった。これまで博物館に来なかった客層に博物館をアピールでき、南京町や周辺施設とタイアップしたことで、地域経済の活性化に大きく寄与した点で、高く評価できる。
「神戸の文化財Ⅲ」に関しては、入場者数、収支ともに目標には届かなかった。しかし、普段公開されることのない、市内の貴重な文化財を借用し、市民目線の4つの切口で展示したことにより、入場者には好評で、アンケートの満足度は目標を大きく上回った。また、文化庁・令和5年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」の補助金を獲得できたことで、民間事業者とも連携しながら、文化財巡り、外国人のための鑑賞会など、多様な事業を展開でき、さらに収支のマイナス分を補うことができた点で、評価される。この補助金は、3月30日に開幕した「Colorful JAPAN展」でも獲得しており、文化財展同様、多様な事業展開を予定している。
特別展を通して、文化や芸術の発信基地としての博物館の役割を十分に果たすことができたと言える。

2-02―01 ジブリパークとジブリ展

自己評価 S 特に優れている

P課題と目標

・展覧会を通して、宮崎吾朗氏のこれまでの仕事やジブリパークの魅力を紹介する機会とする。
・博物館に足を運んだことがあまりない市民に対し、展覧会を通して博物館を知ってもらう機会とする。
・多くの入場者が想定されるため、安全かつ安心して鑑賞できる運営を行う。
・予算書の数値(収支、入場者数、有料率)を達成する。
【予算書想定】入場者数126,117人、有料率75%
・アンケートなどお客様の声をとおして改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。目標満足度83以上。

D実施内容

【展覧会名】ジブリパークとジブリ展
【会期】令和5年4月15日(土)～6月25日(日) 63日間
【主催】神戸市立博物館、読売テレビ放送、産経新聞社、キョードー関西
【協賛】DNP大日本印刷
【後援】FM802、FM COCOLO
【企画制作協力】スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館、ジブリパーク
【入場者数】227,177人(1日平均3,606人、有料率74.3%)
【パンフレット売上】7,109冊
【アンケート満足度】84.13%
紙:満足度85.64%、スタッフ対応82.54%、解説84.28%、展示室環境80.42%、展示の質88.59%、展示の見やすさ82.39%
オンライン:満足度83.83%、スタッフ対応82.82%、解説82.62%、展示室環境81.88%、展示の質90.64%、パンフレット81.06%
【収支バランス】達成度:203%
【展示概要】
詳細は報告編p.22～27

自己評価の詳細 プラス面

・展覧会を通して宮崎吾朗氏のこれまでの仕事やジブリパークの魅力を紹介することができた。
・入場者数は予算書想定を超すことができた。
・入場日時予約制を導入し、館内外で大きな混乱を生むことなくスムーズに案内・運営ができた。
・主な券売方法をオンラインとプレイガイドにして、館内での券売にかかる混雑を抑制できた。
・家族(保護者+子供)の来場者が多いことが想定されたため、入場予約に「親子予約枠」を設けた結果、多くの家族客の来場につながったと考えられる(オンラインアンケート6,650件のうち、50.8%が家族と来場)。
・なりきり名場面展示の混雑が続いたため、会期中盤以降に写真撮影を運営スタッフが行うようにしたところ、写真撮影にかかる時間を短縮することができた。
・特設ショップへの最終入場時間を設定し、館内アナウンスを行うことで、スムーズに閉館することができた。
・混雑および多数の来場が見込まれた5月の連休と6月2週目の土日、6月17日から閉幕まで開館時間を延長し、より多くのお客様に特別展を鑑賞いただけた。
・オンラインアンケートを導入したところ、紙よりも多くの回答が得られた。
・満足度で目標数値を達成した。
・収支バランスで黒字となった。

自己評価の詳細 マイナス面

・展示内容が大型かつ多量のため特別展示室内に収まりきらず、回廊部分に設置することとなったため、回廊部分が大変混雑した。展示室内も狭く、入場者をはじめ、車椅子利用者、職員、スタッフの通行が難しいことがあった。
・想定よりも早く予約枠が完売したため、プレイガイドでチケットを購入できるが予約ができない、という状況が発生した。
・入場日時予約制の周知が徹底できておらず、予約なしで来館されて入場できずにお客様が帰られることがあった。
・開幕当初から中盤まで、なりきり名場面展示の写真撮影を入場者本人にお願いしていたが、撮影に時間がかかりすぎて待機列が長大になった。
・展示室内は造作や入場者の混雑で見通しが悪く、監視の目が行き届かないところがあり、作品への接触や、撮影不可とした作品の撮影があった。
・高校生以下と障害者を同じ無料予約枠としたところ、会期後半に障害者が予約できない状況となった。
・機器トラブル等のために職員が業務時間外や休日に急いで対応しなければならない事態が複数回発生した。

2-02―02 神戸の文化財Ⅲ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

「神戸の文化財」展の第三弾として、令和時代に伝えたい神戸の文化財の魅力や保護継承の取り組みを多くの方々に知ってもらう機会とする。
・予算書の数値(収支、入場者数、有料率)を達成する。
【予算書想定】入場者数:20,000人(有料率70%、454人/日)
・文化庁補助金を獲得し、展覧会内容や関連事業の充実を図る。
・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。　目標満足度83以上。

D実施内容

【展覧会名】神戸の文化財Ⅲ ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～
【会期】令和5年7月22日(土)～9月10日(日)　44日間
【主催】神戸市立博物館、神戸市文化財課、神戸新聞社
【後援】NHK神戸放送局、ラジオ関西、サンテレビジョン
【協賛】公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部、一般財団法人みなと銀行文化振興財団
【協力】一般財団法人神戸観光局、神戸新聞旅行社、株式会社ポトマック、株式会社日比谷花壇
【入場者数】8,932人(1日平均203人、有料率59.1%)
【図録売上】272冊(購入率3%)
【アンケート満足度】満足度:88.87%　スタッフ対応:89.57%　展示のみやすさ:88.04%　解説のわかりやすさ:84.66%　展示室の環境:88.33%　展示品の質:91.26%　図録:84.78%
【補助金申請】文化庁・令和5年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業(日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業)」へ申請。採択され、補助金交付を受けた。
【収支バランス】達成度:83.2%
【展示概要】
詳細は報告編p.28～33
【関連事業】
詳細は報告編p.54

自己評価の詳細 プラス面

・普段は見られる機会の少ない、市内の寺社の宝物などの貴重な文化財の数々が一堂に会し、その魅力を市民をはじめ多くの方に知っていただく機会となった。
・神戸市文化財課と共催とすることで、神戸市埋蔵文化財センター保管の市内遺跡よりの出土品の出品や、無形の文化財などを紹介するパネル展示、発掘調査成果の速報展示が実現し、より充実した展示内容となった。
・満足度で目標数値を達成した。
・文化庁・令和5年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」の補助金を獲得できた。同事業で採択された事業の中でも本展は評価され、事例報告会の機会を得て、取り組み内容を発信することができた。
・補助金申請の関係で企画したイベントは好評を得た。各協力団体や、ツアー見学先の市内寺社と、本展のみならず今後にもつながる協力関係を築くことができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・入場者数および有料率が想定に及ばなかった。
・校正が不十分だったことから、広報印刷物が誤植を残したまま納品された。外部流出は免れたが、再印刷費が余分にかかり、広報が遅れることにもなった。
・外国人を対象に、展覧会を鑑賞し市内文化財を巡るバスツアーを企画したが、外国人の応募は1人のみで、急遽日本人も募集した。企画内容や広報の方法に課題を残すこととなった。

2-02―03 Colorful JAPAN―幕末・明治手彩色写真への旅

自己評価　F 評価が困難

P課題と目標

・幕末・明治期に撮影され、手彩色が施された写真と関連資料約150点を一堂に展観し、実物の色合いと構図の美しさを御覧いただいて、手彩色写真のもつ機能と時代を超えて魅惑する「JAPAN」の姿を紹介する展覧会を開催する。
・予算書の数値(収支、入館者数、有料率)を達成する。
【予算書想定】入館者数:32,000人(有料率75%、24,000人)
・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。
目標満足度83%以上。

D実施内容

【展覧会名】Colorful JAPAN―幕末・明治手彩色写真への旅
【会期】3月30日(土)～5月19日(日)　45日間
【補助金申請】文化庁・令和5年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業(日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業)」へ申請。採択され、補助金交付を受けた。
【展示概要】
詳細は報告編p.34～38
【入場者数】・【図録売上】・【アンケート満足度】・【収支バランス】・【関連事業】は会期が終わっていないため次年度に記述する。
詳細は報告編p.54

自己評価の詳細 プラス面

・手彩色写真を主題とした展覧会としては、国内で最大規模のものとなり、独自性のある企画となった。
・額装ではなくアルバム形態での展示にこだわったことで、手彩色写真のイメージだけでなく実体を持った「モノ」としての側面を際立たせることができ、歴史的背景に対する来館者の理解が深まった。
・手彩色写真という神戸にもゆかりのある幕末～明治期の工芸品を、多くの方に知っていただく機会となった。
・インターネットでの広報に注力した。交通広告についてもデジタルサイネージを積極的に活用した。
・会場外と1階ホールの2箇所に写真撮影が可能な場所を設けたことで、来館者によるSNSでの口コミも広報手段に入れることができた。
・展示しているページ以外に収録されている手彩色写真を、ICT機器を用いて見られるようにすることで、来館者の展示への理解を深めた。
・図録、キャプションともに日英2か国語併記とすることで、日本語を母語としない来館者にも展示を楽しんでいただきやすい環境になった。
・文化庁・令和5年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」及び地元企業の協力を得て、英語での広報や関連事業を展開できた。
・近年謳われている「地域における文化観光拠点を中核とした文化観光の推進」の内容に沿うような展覧会の開催となった。

自己評価の詳細 マイナス面

・展覧会内容が手彩色写真の解説と既存学説の紹介に留まり、新たな学術的知見やメッセージ性を盛り込むことができなかった。
・展覧会スケジュールの管理が十分でなく、諸手続きの中で度々遅れが見られた。
・印刷物の校正が展覧会直前まで続いてしまった。
・造作の校正で見落としがあり、一度製作工程に入っていたものを作り直さなければならなくなった。

(この特別展は令和5年度の開催が2日間のみ。最終的な開催実績をふまえた評価については令和6年度版で行うので、令和5年度の評価は「F」とした。)

2-03 企画展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 「コレクション大航海　蝦夷発→異国経由→兵庫行」は、3分野の統一テーマを決めるのに時間がかかったものの、「館蔵品展」というより「大航海展」としたことで、テーマが明確になり集客にもつながったといえる。図録を作成しなかったためか、過去の館蔵品図録の売上が好調となったことは予想外の反響といえる。ただ広報費を抑えすぎたため、チラシ不足についてご意見を各所からいただいた。
「神戸の仏教絵画―旧居留地×異世界巡り」は「異世界巡り」をコンセプトに、難解と想われがちな仏教絵画の世界を分かりやすく伝えることができた。

2-03―01 コレクション大航海　蝦夷発→異国経由→兵庫行

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・展覧会を通じて、当館のコレクションについて幅広い世代に知ってもらう機会とする。
・予算書の数値(収支、入場者数、有料率)を達成する。
【予算書想定】入館者数:9,120人(有料率53.4%、240人／日)
・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。　目標満足度83%以上。
・来館者の安全確保と円滑な運営に努める。

D実施内容

【展覧会名】コレクション大航海　蝦夷→異国経由→兵庫行
【会期】令和6年2月10日(土)～3月17日(日)　32日間
※当初の予定(2月10日～3月24日)より期間短縮
【主催】神戸市立博物館
【入場者数】8,280人(1日平均259人、有料率60.49%)
【展示概要】詳細は報告編p.39～46
【アンケート満足度】満足度:90.67%　スタッフ対応:93.75%　展示のみやすさ:90.44%　解説のわかりやすさ:87.50%　展示室の環境:88.60%　展示品の質:91.91%　パンフレットについて:91.04%
【収支バランス】達成度:110%
【その他】本展チケットで2階コレクション展示室も観覧可とし、動線や運営を工夫して実施した。
【関連事業】詳細は報告編p.54
詳細は報告編p.39～46

自己評価の詳細 プラス面

・館蔵品について、多くの人に知っていただく機会となったと同時に、学芸員が館蔵品に向き合う良い機会にもなった。
・限られた予算のなか、印刷物や広報を工夫し、収支バランスを黒字にすることができた。
・入場者の満足度は90.67%と、高い値となった。

自己評価の詳細 マイナス面

・経費削減のためチラシの印刷枚数を減らした結果、チラシを配架している各所からチラシが足りないとの意見があがった。
・金・土曜日に実施している夜間開館は、18時30分以降の入場者が極めて少なく、費用に対する効果があまり見られなかった。

2-03―02 神戸の仏教絵画―旧居留地×異世界巡り

自己評価 F 評価が困難

P課題と目標

・展覧会を通じて、神戸市内に伝来する仏教絵画の価値を発信する。
・一般の来館者が興味をもって観覧できるような展示上の工夫を実施する。
・インバウンド需要に対応するため、JAPAN展同様日・英併記の解説パネル・キャプションを作成する。
・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。　目標満足度83%以上。
・来館者の安全確保と円滑な運営に努める。

D実施内容

【展覧会名】神戸の仏教絵画―旧居留地×異世界巡り
【会期】令和6年3月30日(土)～5月19日(日)　45日間
【会場】特別展示室1
【主催】神戸市立博物館
【展示概要】詳細は報告編p.47～48
【その他】コレクション展示の観覧券で観覧可な特集展示として実施した。
【入場者数】・【アンケート満足度】・【収支バランス】・【関連事業】は会期が終わっていないため次年度に記述する。
詳細は報告編p.47～48

自己評価の詳細 プラス面

・当館が寄託を受けている、神戸市内に伝来する仏教絵画を紹介する展覧会を企画することができた。
・解説パネル・キャプションを日英2か国語併記とすることで、日本語を母語としない来館者にも展示を楽しんでいただきやすい環境とした。
・「異世界巡り」をコンセプトに、柳原義達の作品をナビゲーターとした解説パネル・キャプションを作成することで、難解と想われがちな仏教絵画の世界を分かりやすく伝えることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

(この企画展は令和5年度の開催が2日間のみ。最終的な開催実績をふまえた評価については令和6年度版で行うので、令和5年度の評価は「F」とした。)

2-04　特別利用等

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　特別利用など、館外の個人・法人による資料活用については、大きなトラブルもなく申請された案件を処理できた。令和5年度は申請件数が減少している。これが一時的なものかどうかは判断できないが、デジタルアーカイブの閲覧数減少（1-04-04参照）と合わせて、動向を注視したい。

2-04―01 画像利用・画像提供

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・申請及び申込に対する手続きを迅速かつ適切に行う。
・手続き中に発生した問題を記録し、来年度以降の運用方法、契約内容に反映する。

※令和4年度実績
【画像利用】190件1084点
【画像提供】314件490点

D実施内容

【画像利用】申請169件827点
詳細は報告編p.49

【画像提供】387件582点
詳細は報告編p.49

自己評価の詳細 プラス面

【画像利用】
・申請手続きを迅速・適切に行えた。
【画像提供】
・業務委託業者と適宜連絡を取り合い、大きな遅延もなく提供を進めることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・画像利用、画像提供ともに近年、申請件数が減少傾向にある。館蔵品について発信するとともに、より多くの人が利用しやすい方法を考えていく必要がある。

2-04―02 特別利用・館外貸出

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・申請に関する手続きを迅速かつ適切に行う。
・申請に際しては、申請者・資料担当者と十分な調整を行い、ミスやトラブルのないように手続きを進める。

令和4年度実績
【特別利用　館外貸出】20箇所　347件355件
【特別利用　館外貸出以外】32件361点

D実施内容

【特別利用　館外貸出】16箇所　358件517点
詳細は報告編p.49～51

【特別利用　館外貸出以外】申請39件334点
詳細は報告編p.51

自己評価の詳細 プラス面

【特別利用　館外貸出】
・今年度は大規模な貸出が複数件あったが、事前の調整によって滞りなく進めることができた。
・展覧会直前での貸出依頼があり、手続きを急がなくてはならない場面があったが、迅速に対応することができた。
【特別利用　館外貸出以外】
・申請手続きをスムーズに処理できた。

自己評価の詳細 マイナス面

2-05　広報

評価

評価の詳細

2-05―01 HP、SNS

自己評価　A 優れている

P課題と目標

・【全体】年度当初に、更新および投稿の中長期計画、作業フローを整理する。
・【HP】遅滞なく適したタイミングで更新できるよう努める。利用者にとって見やすく分かりやすい情報提供を目指す。
・【HP】ミュージアムカフェ特別室（トムセンルーム）及び「地域文化財展示室」の展示内容に関する紹介を新たに作成する。
・【HP】多言語に対応したHP運営を行う。
・【SNS】Facebook、Twitter、Instagramについて現状分析を実施し、投稿数及びフォロワー数の増加を目指す。

※昨年度実績
【HP】
・委託業者による更新件数　75件
・職員による更新件数　55件
・訪問者数　734,330アクセス
【SNS】
Facebook投稿数146、フォロワー数3,651、
Twitter投稿数204、フォロワー数13,941、
Instagram投稿数66、フォロワー数1,835

D実施内容

【HP】
・ミュージアムカフェ特別室（トムセンルーム）及び「地域文化財展示室」の展示内容に関する紹介ページを新たに作成した。
・特別展・コレクション展毎に、内容を紹介するトップバナーを随時作成した。
詳細は報告編p.51

【SNS】
・Instagramをビジネスアカウントへ変更した。
・展覧会担当者にSNS投稿計画を配布し、定期的な情報発信を行った。
詳細は報告編p.51～52

自己評価の詳細 プラス面

・目標としていたミュージアムカフェ特別室（トムセンルーム）及び「地域文化財展示室」の展示内容の紹介ページを作成することができた。
・「ジブリパークとジブリ展」の開催時期にHPのアクセス数が大幅に増加した。
・HPに掲載するスケジュールについて、これまでは委託業者に更新を依頼していたが、職員でも更新可能なGoogleカレンダー機能を導入したことで、より迅速で細やかなスケジュール表記が可能となった。
・Instagramをビジネスアカウントに変更することで、より詳細な分析が可能となった。
・SNSのフォロワー数を、昨年度から増やすことができた。
・「Colouful JAPAN」においてSNS広告を活用したことにより、リーチ数が大幅に増加した。
・展覧会担当者にSNS投稿計画を配布し、概ね定期的に情報発信することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・SNSに誤った情報を投稿したことについて、フォロワーから意見が寄せられた。
・担当者の多忙等により、SNS投稿計画のとおりに投稿を行うことができない場合があった。

2-05―02 印刷物製作（博物館だより・展覧会予定等）

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・博物館だよりの秋、春合併号を発行する（12月末発行）。
・博物館だよりについて、来館者への館内での配布、関連施設への発送を行う。
・上記の電子データを博物館ホームページ等において公開、SNSでの紹介を行う。
・内容構成については、展覧会、普及事業の周知ならびに学芸員による研究成果の発信を両立したものにする。
【参考：昨年度発行内容】
　特別展紹介、展示スケジュール、学芸員のノートから、
　神戸市立博物館開館40年～この10年を振り返る～、
　新規収蔵資料紹介、普及講座紹介

D実施内容

・博物館だより（年間スケジュール機能を兼ねる）を秋に1回発行した。
・配布期間中の来館者数を予測し、博物館だよりの部数の見直しを行った。
・来館者に向けて館内での配布を行った。
・広報のため、関連施設への発送を行い、配布を依頼した。
・市民への配布分を多くするために、庁内への送付箇所を文化センター等の必要箇所に縮小した。
・博物館だより124号のPDFをホームページに掲載した。
詳細は報告編p.52

自己評価の詳細 プラス面

・博物館だよりについて、掲載する特別展、コレクション展示の内容について調整を行いながら、予定通り発行することができた。
・関連施設へ発送を行い、博物館の活動を広報することができた。
・例年は、秋・春の2回発行するが長期休館中につき、合併号として1回のページ数を増やし、内容の充実化を図った。
・記載する内容を増やすことによる、紙面構成の変更等の対応策及びコストを検討する機会となった。

自己評価の詳細 マイナス面

・発送作業が遅れた。
・SNSでの発信を行わなかった。

2-05―03 その他広報活動（取材・掲載対応）

自己評価 A 優れている

P課題と目標

・外部からのメールでの問い合わせについて、担当者間で情報共有を行い、遅滞なく適切に処理する。
・ポスターやチラシ、Web上に掲載する画像など館から発信する情報について、誤った情報が無いよう発信前に確実にチェックを行う。
・博物館が管理する館内外の広報物掲示板各所において展覧会ポスターを掲示し、開催中や開催を予定している展覧会の周知を図る。
・サンポチカでは、掲示スペースの広さを生かして、ポスターだけでなく、ミュージアムグッズを展示したり、館蔵品を写真で紹介するなど、館の魅力を発信していく。特に工事休館中は力を入れて掲示を行う。
・ウォーターフロントエリアの各施設と連携して広報活動ができるか検討する。

D実施内容

・メールでの問い合わせにつき、各担当者に割り振り、対応した。
・特別展や企画展のほか、当館から発信する各種広報印刷物、Web掲載情報につき、内容の確認を行った。

各種広報媒体への記事掲載状況・回数　計120件
詳細は報告編p.52

館外への博物館情報の掲示状況・回数　計10件
詳細は報告編p.52

・ウォーターフロントエリアに所在するアトア（átoa）とチラシの相互配架を行った。

自己評価の詳細 プラス面

・取材申込、広報等申込、その他広報媒体への情報提供について、担当者間で適切に情報共有を行い、滞りなく対応することができた。
・館から発信する情報について、発信前に確実にチェックを行うことができた。
・広報物掲示板およびサンポチカでの広報を通じて、開催中の展覧会情報や博物館の長期休館情報などを提供し、周知に努めることができた。
・特にサンポチカについて、今年度から新たにミュージアムグッズの紹介や展覧会の見どころを展示するなど、積極的に情報を発信できた。
・外壁工事に伴う休館中には、工事仮囲いに次回展覧会情報や一部館蔵品の画像を掲出することで、開館後の情報を発信し、当館に収蔵している資料を紹介することができた。
・ウォーターフロントエリアの施設との広報連携は、検討に留まらず、チラシの相互配架を実施することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・一部の資料提供にて混乱が生じてしまった。
・外部からのメール処理について、見落としてしまうことが何回かあった。
・館外施設との連携、掲示物の作成などは一部の職員の負担が大きくなっていた。
・サイネージについて、展覧会情報の表示が専らで、展示等への活用方法を検討できなかった。

2-06　広聴

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　来館者記入型のアンケートを実施し、アンケート結果の速やかなフィードバックを実施できた。
また、「ジブリパークとジブリ展」より、二次元バーコードによるアンケートも実施し、より多様な意見を集約することができるようになった。
来年度は、より幅広い世代から意見、要望を集めることができるよう、さらに方法を検討していく。

2-06-01 広聴（展覧会等アンケート調査実施、結果集計）

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・特別展、コレクション展示、1階無料ゾーンを対象とした記述式アンケートを実施し、その結果を職員に速やかに共有する。
・オンライン形式のアンケートと紙のアンケートを併設する。

D実施内容

・特別展、常設展期間中に、館内にアンケート用紙・回収箱を設置し、広聴活動を実施している。回収した用紙は日々回覧している。
①特別展「ジブリパークとジブリ展」(4月15日～6月25日)
　回収枚数:251枚（入館者数:227,177人）　展覧会の総合評価:85.64%
②特別展「神戸の文化財Ⅲ～今伝えたい私たちの宝・街・心・技～」(7月16日～9月25日)
　回収枚数:175枚（入館者数:8,932人）　展覧会の総合評価:88.87%
③企画展「コレクション大航海　蝦夷発→異国経由→兵庫行」(2月10日～3月17日)
　回収枚数:78枚（入館者数:8,280人）　展覧会の総合評価:90.67%
・今年度より、従来のアンケート用紙に加え、Googleフォームを利用したオンラインアンケートを実施した。

※展覧会アンケート調査結果は各展覧会の項目を参照。

自己評価の詳細 プラス面

・オンライン形式のアンケートを開設することができた。
・アンケートを遅滞なく実施し、可能な限り展示や運営にフィードバックすることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・Googleフォームを用いたアンケートは、館内で内容を共有することができなかった。

2-07 ミュージアムショップ

評価　A 優れている

評価の詳細　限られた予算ではあるが、新しいグッズを開発し、これを広く広報し、販売につなげていく流れが出来つつある。また、商品管理の手法もシステムが強化され、きめ細かな処理ができるようになったことも、今後のグッズ展開を支える基礎構築ができた。

2-07―01 ミュージアムグッズ開発・販売

自己評価　A 優れている

P課題と目標

・館蔵品によるオリジナルミュージアムグッズを作成し、展示にあわせて販売する。
・SNS等を利用し、ミュージアムグッズを紹介する。
・データベースの利用、棚卸しによる在庫管理を徹底する。

D実施内容

【オリジナルミュージアムグッズの作成と販売】
新規ミュージアムグッズ開発、既存グッズのデザイン一新、販売・再販。
詳細は報告編p.52～53
【広報】
SNS（Facebook、Twitter、Instagram）：4件
サンポチカでの商品紹介展示：1件
詳細は報告編p.53
【展覧会にあわせた販売】
「神戸の文化財Ⅲ」「Colorful JAPAN」開催期間中に、出展されている作品に関連したミュージアムグッズを専用コーナーにまとめて陳列し、販売した。
【在庫管理】
商品の出納記録と在庫管理簿を電子化したFileMakerのシステムを一部一新した。

自己評価の詳細 プラス面

・継続的にオリジナルグッズの作成、販売ができた。
・2月 再開に向けて、記念グッズ（商品詰め合わせ）を作成し、博物館を楽しむ要素を増やすことができた。
・「神戸の文化財Ⅲ」出展作品関連グッズコーナーにそれをアピールするポップを作成し、購入を促すことができた。
・サンポチカにショップコーナーを作成し、実際の商品を展示してアピールを行えた。
・在庫管理、商品の受渡処理などを行うシステムを改善した。

自己評価の詳細 マイナス面

・展覧会に展示している作品の商品は購入率が高く、在庫切れが発生する場合があった。
・売り場の整理整頓が少し疎かになる時があった。
・プレゼント配布を失念した日があった。

3. 人々とともに歩む

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 年度途中に新型コロナは5類に移行し、博物館を取り巻く学校教育・社会教育などの面が徐々に旧態に戻りつつある。ポストコロナを見据えた事業の展開を検討していく。
学校との連携授業については、スケジュール調整によって多くの学校に訪問することができるようになり、裾野が広がったであろう。また、低学年に対して、授業の形態を工夫するなどきめ細かい授業となっている点は評価したい。その他の普及事業では、夜間開館時間に音楽ライブなどナイトタイムイベントを実施するなど新たな取り組みが構築できた。

3-01　普及事業

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　「ミュージアム講座」と「学芸員と神戸を巡る」は、イベント申込システムに加えてオンラインが苦手な方も申込できるようコールセンターを活用するなど、多くの方に参加機会の提供ができた。
子ども向けイベントについて、ホームページやSNSでの発信に加え、すぐーるを活用した発信も試みたが、応募に結びつかなかった。

3-01―01 一般向け普及事業（館内オリエンテーション含む）

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・普及事業及び館内オリエンテーションを通して博物館や当館所蔵品、神戸の歴史に親しんでもらう機会とする。
・各普及事業について円滑かつ安全に実施する。
・各普及事業の広報を積極的に行う。
・アンケート満足度80％以上を目指す。

D実施内容

【展覧会に関する一般向け事業】
・記念講演会　1回
・学芸員による展示解説会　計15回
・障害者のための鑑賞会　1回
・未就学児と保護者のための鑑賞会　1回
・館内オリエンテーション　2回
詳細は報告編p.54

【その他の一般向け事業】
・ミュージアム講座　1件（講座数5回）
・学芸員と神戸を巡る　1件（講座数2回）
・博物館をたのしむ　1件（講座数3回）
・浮世絵の摺り師に挑戦！（おとなの部）　1回
詳細は報告編p.55

自己評価の詳細 プラス面

・新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、感染症対策に留意しながらも、各事業の参加者数を昨年度より増やし、より多くの市民に参加機会を提供することができた。
・例年多くの申込がある「ミュージアム講座」と「学芸員と神戸を巡る」は、イベント申込システムに加えてオンラインが苦手な方も申込できるようコールセンターを活用した。
・「ミュージアム講座」の各講終了後にオンラインアンケートを実施し、講義後すぐに感想や意見をいただいたことで、次回の講義に生かすことができた。
・例年多くの申込がある「学芸員と神戸を巡る」はより多くの市民に参加いただけるよう、定員を増やした。
・「障害者のための鑑賞会」は事業所などに対し個別に案内を郵送し、昨年度より多くの市民に参加いただけた。
・新型コロナウイルス感染症の拡大以降、受付を停止していた一般団体のオリエンテーション受付を再開し、2団体から申込があった。
・昨年度のアンケートをうけて、「博物館をたのしむ」は統一テーマを設けて講座を構成し、受講者から高い満足度を得た。
・「ミュージアム講座」と「学芸員と神戸を巡る」のチラシを作成し、広報に取り組んだ。
・すべての普及事業で満足度目標数値を達成した。

自己評価の詳細 マイナス面

・いずれの講座も定員を上回る応募があったが、受講には欠席があった。
・印刷費の高騰にともない、チラシを当初の予定通りに作成することができなかったため、各所への配布数を減らすこととなった。
・事前申込制のイベントにおいて、申込方法として神戸市イベント申込システムを使用したが、「オンラインが得意ではない」と電話があった。
・「障害者のための鑑賞会」と「未就学児と保護者のための鑑賞会」は、SNSでの告知ができなかった。そのためか、特に未就学児と保護者のための鑑賞会は、参加者が少なかった。
・いくつかのイベントで、実施後の報告をSNSに投稿できなかった。

3-01―02 子供向け普及事業（土器作り教室含む）

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・開かれた博物館をめざす活動の一つとして、子供向けの教育普及プログラムを積極的に実施する。
・展覧会に関連した子供向けプログラムを実施する。
・感染防止・体調面・安全面等に配慮して実施する。

D実施内容

・ジュニアミュージアム講座　1回
・夏休み土器づくり教室　1件（講座数2回）
・博物館たんけん隊　1回
・こうべ歴史たんけん隊　1回
・ワークショップ　3回
詳細は報告編p.55～56

・移動博物館車おきしお夢はこぶ号イベント出展　3回
※松蔭祭を含む。
詳細は報告編p.56

自己評価の詳細 プラス面

・「博物館たんけん隊」では、募集人数を超えての応募があり、参加者アンケートから満足度の高いプログラムであることが分かった。
・昨年度に続き神戸まつり、六甲ファミリーまつり、大中遺跡まつり、松蔭祭に参加し、おきしお夢はこぶ号の出展を中心に学習支援交流員のワークショップを行うことができた。
・展覧会に関連したジュニアミュージアム講座「コレクションそっくり！作品を作ろう！」を実施した。午前中のみの実施で、少人数の募集にしたことで、最少人数での無理のない運営ができた。
・他施設と連携し、外部でワークショップを実施し、当館の活動を広く知ってもらう機会となった。

自己評価の詳細 マイナス面

・教育委員会の要請で紙媒体でのチラシの配布が認められておらず、そのため申込者が5名程度しか集まらないこともあった。来年度以降チラシではなく、各学校施設につき1枚大きなポスターを掲示してもらい案内する、などの工夫が必要になる。
・夏休み土器づくり教室は開催時期が盛夏であり、かつ、大きく火をおこすためスタッフ、参加者ともに体力消耗が激しい。イベントの実施そのものを見直す必要がある。

3-02 博学連携

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 令和5年度の連携授業は、小学3年生の授業数が大幅に増えた。3年生は6年生に比べると集中力がもたないが、スライドと実物資料を切り替えながら実施することで、興味を引き付ける授業となった。
博物館実習は様々な分野の資料取り扱いについて学ぶこと、鑑賞ガイド作成を主に実施している。初の試みとして実習生の作成した鑑賞ガイドを来館者に見ていただく機会を設け、感想を得る良い機会となった。

3-02―01 連携授業(館内オリエンテーション含む)

自己評価 S 特に優れている

P課題と目標

・公立私立、校種問わず、学校からの希望があった場合、学校と連携しながら博物館所蔵資料と関連付けた授業を実施する。
・連携授業は年間100回以上実施する。
・なるべく多くの学校、多くの学年に授業の機会を提供する。
・校外学習等で館を利用する学校から要請があった場合、館内オリエンテーションを実施する。

D実施内容

連携授業
(1)実施校数 計151校
(2)連携授業実施内容回数 計177回
(3)学芸員の同行回数 9名34回
(4)移動博物館おきしお夢はこぶ号の運用 計17校(20回)
※松蔭祭を含む。
詳細は報告編p.56～57

学校来館
(1)来館校数 計95校
(2)オリエンテーション実施回数 計9校(9回)
詳細は報告編p.56

自己評価の詳細 プラス面

・連携授業は学校側とスケジュール調整を行いながら目標の100回を超え、200回近く実施できた。
・多くの学芸員が授業に同行し、より専門的な説明や解説ができた。
・今年度、1学年1回と授業形態を変えたことにより、小学校3年生の港の発展の授業回数が増え、幅広く授業の機会を提供できた。
・感染症対策による制限がなくなったため、学校来館によるオリエンテーションの実施回数も徐々に増えつつある。
・4月から6月の気温が高くなる時期に児童の身体的負担を減らす古代体験の授業形態を確立することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・年度当初の連携授業申し込みの際に、授業を希望したもののその時点では既にスケジュールが埋まっておりお断りした学校があった。その一方で、年度途中で連携授業の申し込みをし、たまたまその前後にキャンセルが発生していたため、申し込みを受け入れた学校もあった。

3-02―02 大学との連携

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・各大学との連携協定にもとづき、双方の強みを活かした事業を企画し、円滑・安全に実施する。
・単年度のみならず、中長期的な連携プランを構築する。

※昨年度実績
【神戸松蔭女子学院大学】
・「神戸研究総論」への出講:5月～7月 5回 履修者数52人
・松蔭祭へのおきしお夢はこぶ号の参加、展示協力
【神戸女子大学・神戸女子短期大学】
『食物と健康』の原稿執筆(夏・冬号への寄稿)
【神戸市外国語大学】ポスター、チラシの掲載及び特別展チケットの提供
学園祭「水曜祭2022夏」における宣伝広告・物品協賛
【武庫川女子大学】おしゃマニ居留地(2023年2月15日掲載記事)
取材対応、文章校正

D実施内容

【神戸松蔭女子学院大学】
・「神戸研究総論」への出講:5月～6月 5回 履修者数45名
・松蔭祭への参加:おきしお夢はこぶ号、学習支援交流員のワークショップ

【神戸女子大学・神戸女子短期大学】
『食物と健康』に掲載する原稿を執筆した。(夏・冬号への寄稿)

詳細は報告編p.57

自己評価の詳細 プラス面

・対面形式の授業形態やアンケートの実施によって、学生の反応を見ながら講義を実施することができた。
・学園祭への参加を通じて、学芸員課程の学生に展示作業を学ぶ機会を提供するとともに、お客様に博物館について知ってもらう機会をつくることができた。
・大学の協力により、学習支援交流員によるワークショップを初めて開催することができた。
・講義の実施、冊子への原稿執筆も昨年度より引き続き実施できている。

自己評価の詳細 マイナス面

・長期休館の影響もあり、昨年度より大学との連携の数が減ってしまった。
・目標としていた、中長期的な連携プランの構築まで至らなかった。

3-02―03 博物館実習

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・学生が安心・満足して実習課題に取り組めるように、PDCAサイクルを意識したプログラムを作成し、できるかぎりフィードバックの時間を充実させる。
・学生の「専攻分野」「当館での実習希望理由」をもとに、受講生が積極的に参加できるような内容にすることで、学びを深めてもらう。
・感染症の規制が緩和されるなかで、学生にとって安全、かつ充実した実習プログラムを構築し、遂行する。
・今年度の実施内容を振り返り、来年度の博物館実習にかかる募集要項、スケジュールを改善する。

D実施内容

【実施スケジュール】
2月17日：募集開始／4月19日：募集締め切り／4月25日：選考、受け入れ予定通知送付／6月2日：実習費用納付書、プログラム、課題の詳細、注意事項を通知／8月22日～8月26日：第1班／8月29日～9月2日：第2班
【実習課題】ガイドの作成とプレゼンテーション
【来年度分の受講生募集】1班15名の募集を令和6年2月20日より開始した。
詳細は報告編p.57

自己評価の詳細 プラス面

・実習課題の作成については、これまでに引き続き、PDCAサイクルを意識して、日々学生に作成時間を設けて、学芸員によるヒアリングとフィードバックを行った。各実習生のガイドは、当館学芸員にとって参考となるものもあり、貴重な機会となった。
・実習課題として作成した鑑賞ガイドを来館者に手に取ってもらい、意見をもらうプログラムを初めて取り入れた。トラブルなく遂行することができ、実習生からも好意的な感想を得た。
・感染症対策（マスクの着用、手指消毒等）は任意としたが、特にトラブルは発生しなかった。
・今年度の実習対応から来年度の実習生募集まで、概ね当初のスケジュール通り実施できた。

自己評価の詳細 マイナス面

・定員割れが発生しなかったため、昨年度の改善点にあった対応策について、特に検討しなかった。
・講義内容について、「各大学の講義と変わらなかった」という意見があった。当館の取り組みなど、より具体的な内容にするなど、工夫が必要といえる。
・実習課題であった鑑賞ガイドのイメージができていない実習生がみられた。学生時代の多くをコロナ禍で過ごしたことも要因の一つと考えられ、配慮に欠けていた。
・来年度の開館日、展覧会スケジュールの影響により、実施期間を1週（5日間）とし、受け入れ数を15名としたため定員減数となった。

3-03 学習支援交流員

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 2年ぶりに新規学習支援交流員(13期)を募集し新たに6名の方に次年度から活動いただくこととなった。工事休館があり活動日が限定されたが、毎月予定通りの定例会を開催し、体験学習室でのワークショップや来館対応等精力的に活動を行っていただいた。広報面では、居留地ガイドの告知で不十分な内容の発信となった場面があった。

3-03-01 学習支援交流員の活動(定例会・研修・講座・ワークショップ)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・学習支援交流員を新たに募集・登録する。
・学習支援交流員の定例会、勉強会、研修を開催する。
・学習支援交流員が活動を円滑に実施できるよう、学芸員は助言や補助などを行う。

D実施内容

学習支援交流員12名、学習支援交流員アドバイザー23名
令和6年度よりの新規活動参加予定者6名
【活動内容】
・イベントにおけるワークショップ　4件
・館内ワークショップ　5回
・居留地ガイド　9回
・ワークショップのリニューアル　1件
・ワークショップのマニュアル作成　2件
詳細は報告編p.58～59
学芸員の助言や補助、広報、資材調達など
詳細は報告編p.59

自己評価の詳細 プラス面

・新規学習支援交流員(13期)の募集・研修を漏れなく実施し、登録予定者を得ることができた。
・毎月予定通り、定例会を開催して交流員と情報共有を行えた。
・感染症対策の緩和にあわせ、体験学習室でのワークショップや来館者対応、居留地ガイド等の活動機会を増やすことができた。
・交流員へ館外イベントを積極的に紹介し、昨年度よりも活動の幅を広げることができた。またイベント当日は交流員のワークショップへ多くの参加者を得た。
・9月～2月までの工事休館中も、中央区役所の協力を得て居留地ガイドを月1回実施できた。
・三宮-元町間のサンポチカギャラリーを利用して学習支援交流員主催イベント案内等を行い、博物館ホームページやSNSのオンライン媒体以外での広報の充実化を図った。

自己評価の詳細 マイナス面

・4月～6月に開催していた「ジブリパークとジブリ展」期間中は、多数の入場者が想定されたため活動制限を行った。
・9月～2月の工事休館において、工事内容によって活動場所や活動を制限することとなった。
・感染症対策として行っていた定例会資料のメール配布を、規制緩和に伴い停止したが、伝達が不十分な場面が散見された。
・広報紙KOBEで居留地ガイドの広報を行ったところ、誌面のルールや制約もあり不十分な発信となってしまった。想定以上の希望者が集合場所に集まり、多くの方へ参加をお断りするなど、不満を募らせる対応となり、様々な意見を頂戴することとなった。
・感染症対策で活動日を火曜日に限定したことが尾を引いており、火曜日以外の活動があまり見受けられなかった。

3-04 地域連携・共催事業

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 木曜会・ミュージアムリンク・居留地協議会などに参加し、情報共有をはかった。神戸市文化振興財団との連携事業による講座では、これまで開催してきた文化センターでの地域セミナーは、特別展に関する講座を追加して、より多くの人たちに神戸の歴史文化について知ってもらうことができた。

3-04-01 地域連携・共催事業(神戸市民文化振興財団、木曜会などの連携含む)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・講座やイベントの開催予定が確定した時点で早めに館内で共有する。
・実施後は速やかに実績を記録、報告する。
・地域と連携し、博物館の強みやスキルを活かした事業を企画、実施する。
・木曜会への出席

D実施内容

【神戸市文化振興財団との連携事業による講座】
文化センター地域セミナー 9回開催 のべ278名参加
詳細は報告編p.59
【その他の講座・連携事業】
8回開催
詳細は報告編p.59～60
【阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)】
対面式の会議が4回実施された。館内LED化やカフェスペースなど施設関係の話から、SNS、普及事業に至るまで幅広い内容で議論が行われた。
【KOBEミュージアムリンク】
神戸市内の21の博物館・美術館で構成され、月1回の定例会と広報担当者会を開催し、共同事業の企画実施や情報交換を行った。
20館による「リアル謎解き ミュージアムと不思議な扉」(7月22日～10月31日)に参加した。
【旧居留地連絡協議会】
旧居留地に事業所等を設置している企業・事業者約110社で構成された地域団体であり、まちづくり、防災、環境保全、親睦等の活動を行っている。
クリーン作戦 3回参加
【再開館イベントの実施】
中央区のマスコットキャラクターかもめんが来館した。
【展覧会に伴う割引の実施】
周辺の飲食店とタイアップし、博物館の入場券の半券を提示することにより割引が適用されるキャンペーンを行った。
詳細は報告編p.60
【三宮プラッツとの連携】
三宮プラッツにて各種イベントを開催している株式会社トーハクと連携し、ナイトタイムミュージアムにあわせてイベントを開催した。
イベント回数 計6回
詳細は報告編p.60～61

自己評価の詳細 プラス面

・講座やイベントなどは、毎月末に会議で館内共有を行えた。
・神戸市文化振興財団との連携事業による講座では、これまで開催してきた文化センターでの地域セミナー(特別講演会など)を実施し、より多くの人たちに神戸の歴史文化について知ってもらうことができた。
・阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)について他館と活発な意見交換を行うことができた。
・おきしお号の出展及び、学習支援交流員によるワークショップの開催など、地域との関わりのなかで幅広い活動を展開することができた。
・兵庫県内の博物館などと協力し、ワークショップイベントなどを幅広く実施した。
・KOBEミュージアムリンクにおいては他館との情報共有およびイベントを実施することができた。
・旧居留地連絡協議会の各種行事等に参加、協力することにより、地域貢献につながった。
・周辺飲食店との割引を伴うタイアップは、来館者に博物館見学後に周辺地域の飲食店を回遊するきっかけを与え、地域全体の活性化にも大きく寄与する取り組みとなった。
・ナイトタイムミュージアムのイベントは各回とも盛況に終わり、イベントを楽しんだ多くの参加者に博物館の存在を周知することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・実施実績を館内で共有するまでにタイムラグがあった。

4. やさしさと安心の確保

評価 A 優れている

評価の詳細 博物館に求められる役割が多様化するなかで、市と事業者で連携しながら、求められる役割を十分に果たした。加えて令和5年度は大規模改修を行い、来館者により良いサービスが提供できるよう取り組んだ。引き続き、日々の業務のなかで来館者の目線に立ったサービスが提供できるよう、常日頃から心掛けることが重要である。

4-01 施設管理

評価 A 優れている

評価の詳細 令和5年度は、外壁改修工事、ガス吸収式熱源更新工事、老朽排水管更新工事、照明のLED化工事など大規模な施設の更新工事を実施した。設備総括管理を委託している事業者とともに、設計施工監理を担当した建築住宅局及び施工工事会社と連絡を密にしながら安全に工事を実施することができた。
また、大規模工事における連携のみならず、消防設備の不具合状況など委託事業者からの的確な報告もあり、消防法に準拠した設備の適正な維持管理を図ることができた。

4-01―01 建物・設備の現状と課題、長寿命化の計画と対策

自己評価 A 優れている

P課題と目標

・設備総括管理業務の委託業者と連携し、設備稼働状況等の情報を共有し、計画性をもって設備保守点検等、更新等を実施する。
・改修工事（外壁改修工事、ガス吸収式熱源更新工事、老朽排水管更新工事、照明のLED化工事）について、関係部署並びに請負業者と連携しながら実施する。

D実施内容

・エレベーターや消防設備等の点検、その他法定点検を実施し、不備等があれば適切な修理や部品の交換等更新を行った。
・空調機器等の設備機器の運転・管理を適切に行った。
・1階ホールの天井について、塗装のはがれ等の補修工事を行った。
・改修工事について大きな問題もなく実施することができた。
詳細は報告編p.62～63

自己評価の詳細 プラス面

・設備総括管理業務を委託している事業者と連携を密にしながら、適切な設備の維持管理と改修工事、改修計画を確実に行えた。
・消防設備や防火設備において、経年劣化等での不具合が起きている箇所について補修を行えた。
・改修工事については関係者の努力によってスムーズに完了した。

自己評価の詳細 マイナス面

・建物、設備自体の老朽化が進んでおり、経常的な予算での補修等は困難な状況にある。

4-02　インフォメーション、ショップ・カフェ

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　インフォメーションについて、入館者への案内業務を迅速、適切、丁寧に行い、苦情等にも粘り強く対応できた。また、当館職員とも常に報告・連絡・相談等を適切に行い、円滑に業務の遂行を行うことができた。
ミュージアムショップ・カフェについて、特別展とのコラボメニューの企画・開発を図り、特別展の一層の魅力向上に努めた。

4-02―01 インフォメーション

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・1階インフォメーションおよび2階コレクション展示室入口での業務を円滑に実施すること。 ・3階事務室内での電話交換業務を円滑に行うこと。 ・日報を正確に作成するとともに、入館者情報を適時正確に把握すること。 ・2月からの新たな契約締結を速やかに行うこと。	・日報、月報、入館者情報等、適時正確に報告を受けた。 ・入館者への案内を迅速、適切、丁寧に行っており、様々なご意見にも粘り強く対応した。 ・博物館職員や警備、清掃等の館内関係者との連携を図り、来館者の立場に立った対応を行った。 ・館内関係者からなる連絡会等では、来館者目線からの改善点の指摘や、円滑な運営につながる貴重な意見の提案などがあり、館の運営改善に役立った。 ・2月からの新たな契約を滞りなく行った。 詳細は報告編p.63	・館内インフォメーション・電話交換の業務を円滑に実施するとともに、スタッフの来館者目線からの対応により、来館者からお褒めの言葉をいただくことにつながった。 ・日報を正確に作成するとともに、入館者情報を適宜正確に把握することができた。 ・2月からの契約について、同じ業者に引き続き委託することにより、スムーズな運営ができた。	

4-02―02 ミュージアムショップ・カフェ

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
入館者に喜ばれる質の高いサービスを提供すること。	・神戸ビーフや神戸ポーク、地元産野菜などを多用するなど、地産地消を積極的に取り入れ、おいしさはもちろんのこと、近年の健康志向にもマッチしたメニューづくりに取り組んだ。 ・令和5年度に実施した特別展「ジブリパークとジブリ展」においては、ジブリ作品をモチーフにしたメニューを設定するなど、来館者の満足度向上を図った。 詳細は報告編p.63	・レトロで趣のある昭和初期の建物である当館の雰囲気を生かした店舗つくりが行われた。 ・メニューにも工夫を凝らし、地域全体の魅力向上につながるような取り組みも行うことができた。	

4-03 警備、清掃

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 立哨警備、巡回警備を厳格に行い、不測の事態の発生予防に努めた。
日常清掃、定期清掃ともに手順に従い適切に実施し、館の美化維持に努めた。

4-03-01 警備

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
展示・館蔵資料の良好な保存環境の保持と、盗難・破損からの保護、並びに来館者への快適な鑑賞環境空間の提供のため、万全な警備を実施すること。	・機械警備については、午後10時から翌日午前5時まで実施した。 ・人的警備については、昼間は通常2名体制、夜間は24時間勤務の1名体制で常駐警備を実施。休館日、臨時休館日については1名体制で実施した。 ・西側通用口における入館者チェックを厳格に行い、不測の事態の発生予防に務めた。 ・館内、館外(館周辺)の巡回警備を適切に実施した。 詳細は報告編p.63	・立哨警備および巡回警備について、特に問題なく業務が遂行できた。	

4-03-02 清掃

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・清掃業務は開館日は3人体制で、開館時間までに業務を完了する。臨時休館日は2人体制で適切に実施する。 ・10月からの契約更新を行う。	・日常清掃、定期清掃ともに適切に実施した。 ・展示室、回廊、ホール、トイレなど入館者が利用する場所、事務室等施設側が使用する場所ともに手順に従い、適切に業務を実施した。 詳細は報告編p.63～64	・日常清掃、定期清掃ともに適切・確実に実施できた。	

4-04 緊急時対応

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　想定外の事態が発生したことを想定し、全ての職員・スタッフがどう対処すべきかを常に意識した行動を取ることができた。特に、来館者の体調不良等への対応については、救護室へのスムーズな案内や救急車の緊急要請等、円滑に行うことができた。
大きな集客が期待できる特別展の開催にあたっては、消防・救急計画を作成し、それに基づく消防避難訓練等を実施するなど、大規模災害を想定した訓練を実施できた。

4-04-01 緊急事態への対応状況（来館者対応、事件・事故・災害対応）

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
想定外の事態に対応できるよう、すべての職員・スタッフが万が一の場合の対応を常に意識しておく。

D実施内容
・来館者の体調・けが等の対応については、適時スタッフ間の連携により、本人への体調確認や同伴者からの情報収集を円滑に行い、救護室への案内や救急車の要請等、円滑に行うことができた。

自己評価の詳細 プラス面
・想定外の事態の発生はなかったが、すべての職員・スタッフが万が一の時にはどのように対処すべきかを常に意識しておくことができた。
・些細な事象にも大きなリスクが潜んでいる場合もあることを常に意識し行動するよう、周知できた。

自己評価の詳細 マイナス面

4-04-02 大規模災害への対応策

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・消防、救急計画の周知徹底する。
・実態の即した避難訓練の実施する。

D実施内容
・特別展（「ジブリパークとジブリ展」「神戸の文化財III」「Colorful JAPAN」）開催前日に、出火原因に応じた消防避難訓練を実施した。
・出火場所に応じた、適切な避難誘導が必要であることを職員・スタッフ全員で情報を共有した。
・新型コロナウイルス感染症対策を実施した。
詳細は報告編p.64

自己評価の詳細 プラス面
・消防避難訓練を通じて、職員・スタッフの防災への意識付けができた。

自己評価の詳細 マイナス面
・阪神・淡路大震災から29年が経過し、当館職員の大半が当時の経験を持たない職員構成となっている。当時の経験など伝承することが課題となっている。